

て居る結果である。昔々は争亂發生を希冀するものではない之等の争亂を起さないと言ふ事か昔々の逸話である。地主と小作人と比較すると地主は餘り働かなくつても一定の小作人が遣入る、一方小作人は働いても働いても其の日の生活に返はれると言ふ異つた處がある。明治の初年迄は和室小作人の権利が認められて居た然るに鐵道りの民法と言ふ法律を造つたして、民法が出来た爲めに小作人の土地も地主の方に行つたと言ふ例は多い。此の民法の事件に依つて小作料も段々上つて来た先づ平氣の長利を延取するには農民を割の長い條にする爲めに農民組合と提携が必要である農利の貧乏の原因は決して農民に非はないのである現在の經濟組織機構が悪いのである。昔の百姓は餉を食つて居たが現在の百姓は餉を食つて居ると言ふものがありますか其れは世の中の生活の標準が高くなつて来た爲めでこんな考は間違つて居る。資本主義

かある爲めに農利が殺奪する、此の資本主義を延て直さなければならぬ。小作人が働か足らざるが故に食ふ事か出来ないと言ふ地主さんに對しては絶對反對である。従つて小作人の土地を奪ふ地主の爲めに農民組合運動も起るのである。滿蒙事件の時最初に聲明して従つて滿蒙が露西亞支那に懸ひさるるならば國家の生命の爲めに身命を賭して戦ふと聲明したと同様に小作人の土地は小作人の生命線でありませぬ。恰も滿蒙の權益を犯すと同様であります。頑固な地主には絶對戦つて行かなくてはならない。小作人の自己的立場から申すのではない、割之する農民を救ふ爲めに叫ぶのである之を殺して私等は主張するのであります。昔々か運糧を付くものであると申される人もありません。昔々か運糧を付く考へる人には考へ付く事でありませぬ。農相山崎達之輔氏を私は學生時代から善く知つて居ますか私は東京の際山崎農相に逢つて農